

令和6年度第1回国分寺市環境審議会議事要約（案）

日 時 : 令和6年7月1日（月） 午後2時～午後4時
会 場 : 恋ヶ窪公民館 講座室2

○会議次第

1. 開会

- (1) まちづくり部長 あいさつ
- (2) 委員紹介

2. 議事

- (1) 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討状況について

3. その他

- (1) 令和5年度動植物調査の結果（概要）について（報告）

4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長、大野政智副会長、大友美輪委員、益子美賀委員、和田淳委員、
竹内大悟委員、六車貴美子委員、荒井雄一委員、藤井恭子委員、伊藤皓子委員
計10人

欠席委員 : 野澤淳史委員、奥津隆彦委員 計2人

傍聴者 : 1人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課4人（部長、課長、係長1人、担当1人）

配布資料

- 資料1… 策定スケジュール（予定）
- 資料2… 計画の基本的事項
- 資料3… 国分寺市の環境の現状と課題の整理
- 資料4… 基本戦略（新しい施策体系）（案）
- 資料5… 令和5年度動植物調査報告書（概要版）

参考資料1… 生物多様性地域戦略とは

参考資料2… 環境基本計画市民ワークショップの意見の整理（第1回～第4回）

令和5年度 第6回（第10期第5回） 国分寺市環境審議会議事要約

令和5年度 環境報告書（令和4年度実績報告）※当日配付

1. 開会

●まちづくり計画課長あいさつ

まちづくり計画課長より会の成立を報告した。

●新規委員への委嘱状交付及び紹介

まちづくり部長によるあいさつ及び委嘱状の交付を行った。

●事務局の紹介

事務局より新しい担当を紹介した。

2. 議事

●配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

●第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討状況について

(事務局より資料1、2を説明)

伊藤委員：計画期間は6年間とのことだが、中間見直しは行うのか。

事務局：計画期間が6年と比較的短い期間のため、中間見直しの予定は特段設けていない。ただし社会情勢の大きな変化などが生じた場合は、必要に応じて見直しを行う方針だ。

中西会長：これまでの環境基本計画は10年間の比較的長い計画期間であったが、社会情勢の変化の中で見直しができる仕組みにすること、国際的な目標年次の2030年に合わせるため6年間になっている。

環境審議会の今年度のスケジュールについて、各回の議題をもう少し具体的に教えてほしい。

事務局：今日は環境基本計画の戦略の新しい施策体系の素案についてご審議いただく。次回8月は本日の意見と同月に開催予定の市民ワークショップでの意見などを踏まえ、新しい施策体系、具体的な取組み、目標設定等をご審議いただく予定だ。10月はパブリック・コメント実施前の計画案についてご審議いただく。11月から12月にパブリック・コメントを実施し、1月はパブリック・コメントの意見の概要と、間に合えばパブリック・コメントに対する市の見解を報告する予定だ。2月は最終的な計画案をお示しして、答申をいただきたいと考えている。

中西会長：中々タイトなスケジュールだと思う。昨年度は現状と課題の整理や市民ワークショップや次世代アンケートなど、必要な情報整理をしていた。そのまとめが本日の議題となる。

大友委員：資料2の2頁、自然環境の分野で、緑と記載があるが、水辺や湧水も緑の括りに入れられているが、河川などの括りに入るのでは。もう少し書き方を変えても良いのではないか。例えば、緑(○○)、河川(○○)のように記載してはどうか。

中西会長：緑の中に水辺や湧水を入れたのは理由があるのか。

事務局：単に水の中だけではなく、みどり率に含まれる湿地などの周辺環境も緑と切り離せない

ため、水辺と湧水を加えている。

中西会長：みどり率を算出する時は、河川・水路・湖沼も対象に含まれる。

大友委員：緑という表現は、いろいろな自然という意味があることは承知した。

事務局：緑には、色々な定義があり、表現が分かりにくい面があるので、今後いただいたご意見を踏まえて作成していく。

大野副会長：資料2の2頁の対象分野について、自然環境などはポジティブの意味で、生活環境はネガティブな意味の項目が多いように思う。緑が生活環境を豊かにするという観点も組み込めるのではないか。

事務局：生活環境の項目の列举については、意見を踏まえて検討したいと思う。

大野副会長：生活環境にもっとポジティブな内容を含めても良いと思う。

中西会長：確かに公害関係の内容が多いと思うが、グリーンインフラについても触れると良い。

事務局：生活環境は環境に与える人間の影響をどう抑えていくかという視点がある。パーツだけで考えると緑は両分野に関わるが、施策の考え方としては分かれていると考える。

中西会長：今までの計画では、緑、水、大気、ごみといった分野に分けていたが、次期計画は異なる視点で分けているということか。

事務局：現計画は、地球環境の分野に温暖化やごみが全部入っていた。どちらもボリュームが大きい分野なので、次期計画では分けた方が良いと考える。

(事務局より資料3、4及び参考資料1、2を説明)

大友委員：資料3の9頁、評価が2つあるのは2課が関わっているからのようだが、1つにまとめることはできないか。

事務局：現在1つの項目に対して各課がそれぞれ行った事業に対する評価を示しているが、そのやり方が良いかどうか環境推進管理委員会でも議論になっている。1つの項目(施策)に対して2課に渡って評価をすることは通常あることだが、全体でまとめて評価した方が良いという意見と、責任を明確化するため各課で分けて評価した方が良いという意見の両方がある。分かりやすさという点も含めて次期計画ではどうするか検討している。

大友委員：資料3の21頁、むかしの井戸水における有機フッ素化合物調査結果について、PFOS・PFASの目標値又は基準値の記載がないため、表記された数値が高いのか低いのか分からない。

事務局：国の暫定目標値を50ng/Lが未記載なので、表記する。

中西会長：資料3の20頁の表は右側に環境基準値が書いてある。

事務局：資料3の20頁の表にならって記載する。

大友委員：資料3の11頁の公園面積については、国分寺駅北口広場のようなコンクリートで地面が見えないところも含まれるか。

事務局：国分寺駅北口広場は交通広場であり、公園ではないので含まれない。公園内は通路等を除き、舗装されていない。

六車委員：施策の評価について、おおむね順調以上のものが多い。評価の基準を見直す必要があるのではないか。例えば都市農地については、年々少なくなっているにも努力をしているから、順調・おおむね順調という評価になっているが、実態として農地面積が減っていっ

ている。一見順調に見える施策においても一つ一つ見てみると課題もあるので、本当に順調で良いのか。評価基準を見直すべきではないか。

事務局：評価基準については、環境推進管理委員会のご指摘を踏まえて、必要に応じ見直している。おおむね順調の評価の施策についても、足りない部分があるという認識はしている。新しい計画での評価基準については、今後、環境推進管理委員会からの意見も踏まえて、検討していく。なお、農地については、減少を食い止める有効な手立てが無いというのが現状である。課題としては認識しているが、手をこまねいているわけではなく、それでも生産緑地の追加指定など、農地の減少を少しでも緩やかにする取組は一定行っており、その点について環境推進管理委員会から評価をいただいている。

中西会長：該当箇所については、令和5年度の環境推進管理委員会で確認している報告なので、今から評価を見直すということはできない部分だと思う。今後の評価の仕方については、見直しが必要だと思う。今年度の審議会の中でも議論するのか。

事務局：新しい環境基本計画を策定し、評価基準については環境推進管理委員会の所掌になる。計画策定がタイトなスケジュールなので、今年度新しい評価基準を作成することができると明言できない。ただ、来年度には、環境推進管理委員会においてどう評価をするか協議していくこととなる。

事務局：これまでの実施計画では、施策の効果的かつ明確な目標値が無いものが多かった。例えば、市報などでの情報発信を取組に設定し、取組10回を目標に掲げ、10回実施したら目的に対して効果があってもなくても評価するという状況になっている。新しい計画においては、全部を数値で評価することは難しいが、分かりやすい成果指標と活動指標を定めた実行計画としたい。

中西会長：資料2の4頁、6. 計画改定にあたっての(3)計画の進行管理にて、「本質的な活動指標と理解しやすい成果指標を設定します。」と書いてある。本質的に達成しているかどうか評価できるのが本質的な活動指標で、かつ誰にでも理解しやすいは数値的な成果指標だ。今後そうした指標が策定されるのだと思うが、環境基本計画の中に定めるのか。

事務局：環境基本計画と実行計画を1つの計画書にまとめた内容にしたいと考えている。なお、実行計画の方に成果及び活動の指標を定めていく予定である。

中西会長：指標についても見直せる部分は見直していきたいと思う。

竹内委員：井戸水の調査を行っているが、飲料用なのかどうか、井戸水をどう利用しているのか。また、資料4の戦略0は今後重要になると思う。市民一人ひとりの意識変容や行動変容をどうするのか、どう広報していくのか、アンケートの結果がヒントになると思う。戦略0に繋げていくために、次世代アンケート結果の分析に時間をかけても良いと思う。例えば43頁では、市の環境の取組に対する認知度が全体的に低いのはなぜなのか。一方でお鷹の道など自然環境そのものの認知度は高いのでそのずれはなぜなのか。戦略0の取組はそういった視点から考えていけるのではないかと。国分寺市民は雑木林などの樹林だけよりも水辺が好きな特徴、傾向があるようなので、市の特徴として捉えられるのではないかと。こくベジのような個性のあるキーワードなど今後落とし込んで欲しいと思う。あと総資源化率が多摩地域で第1位ということもすごいことなので、なぜ市民に知られていないのか。ぜひ広められたら良い。

中西会長：施策に落とし込むための分析、掘下げとのことだが、現状はどこまで行っているか。

事務局：アイデアベースで検討している段階である。情報を受けるのが最初の部分になるが、全く届いていないことを次世代アンケートや市民ワークショップを通じて実感している。まずはそこをどうにかしたいと考えている。相手の興味のある分野が SNS 等で自動的に送られてくるような仕組みがあると良いと思う。また、次世代アンケートで、インターネットを活用した手軽なイベントよりも、現地で実体験する体験学習が好まれているという結果もあり、良い気付きを得ることができた。

中西会長：アンケートはとても大事な視点だと思う。

竹内委員：環境審議会としてどこまで議論すべきか把握できていないが、アイデアベースのものでも資料として環境審議会でも議論しても良いのではないかと。市から作成した資料を審議するだけでなく、現時点でしっかりしたものが無くても、環境審議会が出たアイデアも市民目線があるなど、柔軟な議論ができると良い。

中西会長：市民目線などのアイデアについては、市民ワークショップがその役割を担っているのではないかと。ただ環境審議会第2回くらいまでは、アイデアベースでも色々な意見があっても良いと思う。

事務局：市民ワークショップでは、市民の方の普段の暮らしの中で気づいたことなどから、具体的な取組などについて意見をもらっている。ワークショップの意見を整理した段階で抜けている視点が分かる事もあるので、環境審議会でも様々なご意見をいただけるとありがたい。なお、むかしの井戸水は飲料用ではなく、災害時などに使用するものである。

六車委員：資料3の20頁のように、21頁の基準値越えた数値の目立たせ方を統一したほうが良い。43頁の子どもたちの自然に対する関心や、45頁の参加してみたい環境活動の内容においては、「水調査を夏休みにやってみよう」など実施してみると、夏休みの自由研究として参加してくれる。野川の上流と地域の河川の比較や、生物的な視点と科学的な視点と比較するなど、保護者も関心を持ってくれる。13頁の農地の現状の説明文で、2017年現在12.8%の記載になっているが、その下のデータには、2023年まで表記があるので、上記説明文の記載も2023年時点に書き換えても良いのではないかと。10頁の取組29でこくベジに関する取組が停滞と書いてあるが、コロナの感染症で何もできなかっただけで終わらせず、リモートなどで広報するなど、何かアクションを起こすこともできたのではないかと。次年度以降の改善点に入れられればと思う。動けないなりに動画配信など発信方法を模索してもらえたらと思う。

中西会長：この改善点などは既に決定した内容であり、環境報告書などに載せたものか。

事務局：既に環境推進管理委員会で確認し、決定しているので、次年度以降の改善点の内容を変更することはできない。

六車委員：16頁のナラ枯れで、大径木の伐採や若返りが効果的と書かれているが、実施した対策は別のことを説明している。大径木を伐採しているならそのことも書いたほうが良い。

中西会長：切った木の数を掲載した方が良い。

竹内委員：実際伐採はしているのか。

事務局：ナラ枯れしたものについて伐採しているが、予防の目的での伐採は行っていない。

大野副会長：東京都の話では、新しいナラ枯れがほぼ発生しておらず、収束方向に向っているとのこと。よって、記述としては過去形になりつつある。掲載するなら最新のデータで行った方が良い。

- 中西会長：新しいナラ枯れは収束しつつあるものの、途中で枯れてくるものもあると思う。引続き注意は必要だと思う。
- 中西会長：資料４の戦略０はとても重要な部分であるが、他の基本計画には従来書かれていない部分かと思う。情報発信など誰が実施して、どこが継続して行くかなど、今までと違う枠組みが必要になってくると思う。実施していくに当たって実行力のあるものにするために、人員の確保や組織体制等を確保することができるのか。
- 事務局：市の体制について現段階では決まったものは無いが、市だけではうまくいかないし、市だけで企画してもつまらないものになってしまうと思う。協働の仕組みや企業連携を違う枠組みで考える必要がある。今すぐには具体的に示せないが、そういったことを視野に入れた組織づくりを考えている。
- 中西会長：自然環境の分野にて、生物多様性地域戦略を組み込むようだが、保全だけでなく、人の手が適切に加わる管理の視点が必要だと思う。ナラ枯れの防止には、萌芽更新が有効だが、一方で、大径木が残ったことによりフクロウが生息するようになった事例もある。全て萌芽更新するのではなく、また、全く萌芽更新をせず大径木だけになるといったことにもならないよう、適切に人の手を入れていくような施策を作ってほしい。
- 六車委員：適切な管理をできる人材育成も市の役割だと思う。管理に興味関心がある人に養成講座等で育てることもしてほしい。
- 中西会長：そういう養成講座はあるか。他自治体では雑木林ボランティア講座などがある。
- 事務局：ごみ減量推進課で行っている３Ｒ講座はあるが、言われたような講座はない。ただし、西恋ヶ窪緑地などでは、専門知識のある環境団体が維持管理している。計画的に実施されているかは環境団体の方針にもよる。しかし、今後人口減少や携わっている方の高齢化を考えると、今後新しい人材を育成するために専門家を呼んで講習会を受講してもらい、知識をつけてもらい、維持管理に関わってもらうことも重要だと考えている。
- 六車委員：そういう団体が夏休みに子どもたち向けのイベントを実施するなどできると思う。
- 事務局：市民による維持管理の事例研究をしているが、参加する人が楽しんでいて得るものがあることが重要であると感じている。ボランティア精神・自己犠牲・使命感だけで実施するものは中々続かない。雑木林を剪定してその枝で火を焚いてコーヒーを飲むなど、楽しんで続けている事例を参考にしながら仕組づくりを考えたいと思う。
- 益子委員：資料２の１頁の計画の位置づけについて、環境基本計画の下にゼロカーボン行動計画を位置付けているが、なぜゼロカーボン行動計画を先に議論して策定したのか。どういう意図なのか。
- 事務局：作成順は前後しているが、環境基本計画が他の環境分野の計画を包括する最上位の計画となる。ゼロカーボン行動計画は、環境基本計画に紐づく個別計画の一つとなる。一般的には上位計画から個別計画の順に策定する流れだが、地球温暖化対策が待ったなしの状況のため、ゼロカーボン行動計画を策定する必要があった。このため、環境基本計画より先に策定した。
- 中西会長：生物多様性地域戦略も新しい環境基本計画の中に包括され、今年度策定される。
- 益子委員：市民として、今まで環境基本計画があったのかどうか知らないの、今まで何をどうしてきたのか分からない。今並行して開催している市民ワークショップの中で、市として市民が何をしてほしいのかを投げかけているということか。

事務局：環境基本計画を策定するに当たって、何をすべきか等市民の皆さんから意見をもらい、そこから施策や取組内容の反映などを作成するために進めている。

益子委員：こういうことをやります、というのを市民に促す趣旨なのだと思うが、自分事にならないと感じる。市民として、環境基本計画を見て「何かができた」「変わった」というのが分からない。これから市民参加型になるというのであればすごく自分ごとになると思う。

中西会長：これまで市民の皆さんから見て自分ごとになっていなかったということか。

益子委員：ここまで市としてやっているのに、見えてこないのが現状だと思う。子育て世代としては、子どもたちから「学校の授業で環境のことでこんなことを教わって楽しかった」と教えてもらっている。そういう声をもっと増やすにはどうしたらいいのかと考えている。

中西会長：印象に残った取組などを共有してもらえとこの会議が有意義になると思う。市民の方に市の取組が届いていなかったという意見も率直にいただけて良かったと思う。

事務局：そういったこともあり、戦略0が重要だと考えている。

益子委員：市民ワークショップも環境に関心がある人が来ていると思うので、関心が無い人にどうアプローチしていくかということが課題だと思う。ただし、実施し続けることでそこから輪が広がっていくとは思う。

事務局：今までの市民ワークショップの参加者は、関心の高い人に偏ることが多かったことから、今回は、無作為抽出した市民の方13歳から59歳の現役世代の方にも個別に案内を送付した。そのことで、環境はよく分からないけど案内が来たから行ってみるか、と参加してくれた方も毎回10人弱いた。市民ワークショップの中でも委員と同様のご意見も出されており、それらを反映しながら計画を検討している。

六車委員：農業について、農家数や人口が少ないように見える。農業、こくベジを守るためにも、農家のサポートをすることも行政の役割だと思う。1人で農業をしている人のサポートが農家を継続してやっていこうと思う人の後押しになる。喫緊の課題として市は取り組んでいるか。

事務局：援農ボランティアは毎年取り組んでいる。それらの支援を受け入れるかは、農家の意向によるところが大きい。

六車委員：受入れ希望のところにはちゃんとボランティアが入っているのか。

事務局：毎年多数のボランティアの登録があり、受入希望のところに入っている。

六車委員：そのことが計画や評価に出てきているか。

事務局：市民農業大学の卒業生が、援農ボランティアに登録してもらい、ボランティア希望のところには入ってもらっているが、中には畑の管理は自ら行いたいということでボランティアの受入を希望しないところもある。

六車委員：受入希望数と実際にボランティアが入った実績が分からない。

事務局：実績数値を所管課が持っているか確認が必要だ。(※)

六車委員：実績が書いてあれば、順調に施策が実行されていけば成果が上がっていくだろうが、どうなのか見えない。

中西会長：日野市などでも援農ボランティアの受入れを行っているが、受入れを好まない農家もそれなりにいる。市民ワークショップを見るとこくベジの話を多くある。買う人を増やす方が農家の応援になるかもしれない。ただ、戦略の中に落とせていないとは思っている。これから書き込むに当たって、農業支援の視点は必要だと思う。

中西会長：限られた時間での議論だった。基本戦略について、施策の内容や、不足している視点などないか、アイデアが他にあれば、7月10日（水）までメールにて事務局の方で受付をする。次回の8月に具体的な取組内容などを協議する。

（※）援農ボランティアの派遣実績

・ボランティア派遣数

令和2年度：20戸の農家に73人派遣、令和3年度：18戸の農家に70人派遣、令和4年度：19戸の農家に73人派遣、令和5年：18戸の農家に82人派遣、令和6年18戸の農家に89人派遣

・援農ボランティア登録者数：846人（令和6年4月1日時点）

・ボランティア受入希望農家件数：18戸（令和6年4月1日時点）

3. その他

●令和5年度動植物調査の結果（概要）について（報告）

事務局より資料5を説明。

中西会長：動植物相調査（リスト調査）ということか

事務局：指摘のとおりだ。目視のみの調査結果である。竹内委員には専門家ヒアリングにて、水辺環境の変化が大きいので、調査頻度を多くできると良いなどの指摘をいただいている。今後の課題として受け止めたい。

中西会長：調査の季節は書いていないのか。

事務局：本編の方には記載している。

中西会長：市の地勢や植生について概要があると良いかと思う。

竹内委員：2頁の上部「しかし～されます。」はあえて記載しなくて良い。把握しきれていないと書くのはあまり適切ではないので、方法論の中でしっかり説明ができていれば良い。

事務局：参考としたい。

六車委員：平成27年度より前に本調査を実施しているのか。1頁のはじめにで何回目の実施なのか分かったと良い。

事務局：今後の参考とする。

中西会長：フクロウがいたというのは良いと思う。大径木を管理すべきという一方で、こうした大径木を巣にする鳥には必要となるので、目標を定めることは必要だと思う。

●事務連絡

事務局：本日の議事要約は作成後、後日確認をお願いさせていただく。第2回環境審議会は8月28日（水）に開催を予定している。時期が近くなったら改めて開催通知をさせていただきます。

4. 閉会

中西会長：令和6年度第1回国分寺市環境審議会を閉会する。